

ひょうご障害者スポーツ指導者協議会

東播磨地域委員会

取材報告

第3回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会 「知的障害者の部」
(第18回ひょうご・ゆうあいスポーツ大会)

日時 5月10日(日) 10:00~15:20

場所 高砂市陸上競技場他

主催 兵庫県、兵庫県知的障害者施設協会、財団法人兵庫県手をつなぐ育成会、
財団法人兵庫県障害者スポーツ協会



先日5月10日(日)初夏の雰囲気は漂う好天の中、高砂市で第3回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会「知的障害者の部」が行われた。

陸上競技・フライングディスク、サッカー、バレーボール、バスケットボールは高砂市総合運動公園で卓球は高砂市勤労体育センターと近隣で行なわれたが水泳はサンモールスイミングクラブ、ソフトボールは向島多目的球場、ボウリングはニッケパークボウルとやや散らばってしまったが各会場へのアクセスは確保されていた。参加者は選手、関係者併せて約2600名(選手1700名、保護者400名、役員・ボランティア等約500名)で午前10時の開会式を皮切りに各会場で熱戦を繰り広げた。



隣のサブグラウンドではサッカーが行なわれていたが選手達が互いに声を掛け合いチームプレーがしっかり出来ているチームが目立った。コーチの声もしっかりと耳に入れながらのプレーは練習の成果が見て取られた。また体育館ではバレーボールとバスケットボールが同時に行なわれ各チームの応援も熱くなっていた。



陸上競技の走競技では100m以外の短距離種目が全てオープンコースになっており全国大会の選考会としての位置づけならばセパレート方式を採用し各施設・学校への周知徹底が望まれる。

また全国大会では導入されているジャベリックスローも今大会から実施された

総括としては大会スタッフや協議会メンバーの支えで混乱なく非常にスムーズに行なわれ選手達も自分たちの持てる力を十分に発揮できた大会で日頃の練習の成果を出しきった選手の笑顔は印象的であった。残念だったのがフットベースボールで参加チームが1チームのみとなり試合が行なわれなかったことである。また年々参加人数も減少しており障害者の高齢化も懸念される。

報告 小寺 正健